2012年3月30日　高知新聞

高知新聞　（第3種郵便物認可）

早老症治療へ指針

厚労省 世界初の策定 患者6～7割日本人

早期発見で延命可能

若くして老化が進んでしまう早老症（ウェルナー症候群）は、患者数は少ないが、世界中で日本人の患者が6～7割を占める。このほど厚生労働省研究班による世界初の診療ガイドラインがまとまり、日本からの発信を控え、東京で患者家族会と研究報告会が開かれ、最新の情報を交換した。

ウェルナー症候群は、自分では気付きにくいが、成人になるころには白髪や白内障、皮膚の潰瘍やアキレスけんの痛み（石灰化）などが目立つようになるのが特徴。

根本的治療法はまだないが、早期発見と適切な治療で、かなりの効果が得られ、寿命も延ばせることが分かってきた。

原因はDNA修復に関する遺伝子の変異で、両親から二つ受け継ぐ片方の遺伝子が正常であれば病気にならないが、日本人約100人に1人で片方の遺伝子が変異していることが分かっている。

患者家族会の意見交換では「2年前、やっと病気が分かった。分からないままだと大変なことになっていたと思う。患者会を通して病気に負けないよう頑張っていきたい」（千葉県の男性）。

「病気は5年前に判明。今思うと中2で白内障、高校で潰瘍ができたが、原因は分からなかった。みんなに病気であることを知られたくない」（佐賀県の女性）。

「6年間潰瘍が治らず、皮膚移植してもはがれてしまったが、遠赤外線の全身照射で血行をよくすると、傷が閉じてはがれなくなった。予想外の効果」（兵庫県の男性）。

また会の代表、遠藤博之さん（東京都）の妻、昌子さんは「夫はいろいろな病院に行って、両腕を2回手術し、両足も切断。もう行く所がないというときに千葉大で病名が分かった。孤立した中で悩み、苦しんできたが、会ができて何でも話し合えるようになり、負担が軽くなった」と話した。

この後、ウェルナー症候群に国の難病指定を求める声明文を全会一致で承認した。

研究報告会では、班長の横手幸太郎千葉大教授（細胞治療内科学）が「2009年からの全国調査で、新規患者が計396人（うち確定351人、疑い45人）見つかった。患者を対象にした2次調査では、声のかすれが約9割に見られ、ほぼ全例でアキレスけんの石灰化があり、糖尿病などの代謝異常や動脈硬化が著しく進むことなどが確認できた」と指摘。

「今後は治療の標準化と社会的な周知が不可欠で、世界に先駆けて作成した診療ガイドラインでは、代謝異常にインスリン抵抗性改善薬の効果が高いことや、皮膚の潰瘍には積極的に皮膚移植をしていくことなどを盛り込んだ」と話した。

広島大の嶋本顕准教授（分子生物学）からは、患者からの細胞を使って、体のさまざまな組織になる能力がある人工多能性幹細胞（iPS細胞）をつくることに成功、治療や再生医療などに向けた研究が進みつつあることが紹介された。

桐蔭横浜大の後藤真特任教授は、東京大医学部時代に15歳の男性患者と出会い、3年前、49歳で死亡するまでの治療経過などを中心に、この病気の特徴や治療の困難さについて詳しく述べた。

東京で開かれたウェルナー症候群患者家族会

ウェルナー症候群の主要な兆候
（10歳以降、40歳までに出現）
- ■早老性顔貌（白髪、はげ頭など）
- ■声のかすれ
- ■白内障（両側）
- ■皮膚の萎縮、硬化、または難治性潰瘍
- ■アキレスけんの痛み（石灰化）など

2012年3月31日　岐阜新聞

第3種郵便物認可　岐阜新聞　2

くらし

若くして老化進む「ウェルナー症候群」

厚労省、世界初の診療指針

早期発見で寿命延びる

若くして老化が進んでしまう早老症（ウェルナー症候群）は、患者数は少ないが、世界中で日本人の患者が6～7割を占める。このほど厚生労働省研究班による世界初の診療ガイドラインがまとまり、日本からの発信を控え、東京で患者家族会と研究報告会が開かれ、最新の情報を交換した。

ウェルナー症候群は、自分では気付きにくいが、成人になるころには白髪や白内障、皮膚の潰瘍やアキレスけんの痛み（石灰化）などが目立つようになるのが特徴。

根本的治療法はまだないが、早期発見と適切な治療で、かなりの効果が得られ、寿命も延ばせることが分かってきた。

原因はDNA修復に関する遺伝子の変異で、両親から二つ受け継ぐ片方の遺伝子が正常であれば病気にならないが、日本人約100人に1人で片方の遺伝子が変異していることが分かっている。

患者家族会の意見交換では「2年前、やっと病気が分かった。分からないままだと大変なことになっていたと思う。患者会を通して病気に負けないよう頑張っていきたい」（千葉県の男性）。

「病気は5年前に判明。今思うと中2で白内障、高校で潰瘍ができたが、原因は分からなかった。みんなに病気であることを知られたくない」（佐賀県の女性）。

「6年間潰瘍が治らず、皮膚移植してもはがれてしまったが、遠赤外線の全身照射で血行をよくすると、傷が閉じてはがれなくなった。予想外の効果」（兵庫県の男性）。

また会の代表、遠藤博之さん（東京都）の妻昌子さんは「夫はいろいろな病院に行って、両腕を2回手術し、両足も切断。もう行く所がないというときに千葉大で病名が分かった。孤立した中で悩み、苦しんできたが、会ができて何でも話し合えるようになり、負担が軽くなった」と話した。

この後、ウェルナー症候群に国の難病指定を求める声明文を全会一致で承認した。

研究報告会では、班長の千葉大、横手幸太郎教授（細胞治療内科学）が「2009年からの全国調査で、新規患者が計396人（うち確定351人、疑い45人）見つかった。患者を対象にした2次調査では、声のかすれが約9割に見られ、ほぼ全例でアキレスけんの石灰化があり、糖尿病などの代謝異常や動脈硬化が著しく進むことなどが確認できた」と指摘。

「今後は治療の標準化と社会的な周知が不可欠で、世界に先駆けて作成した診療ガイドラインでは、代謝異常にインスリン抵抗性改善薬の効果が高いことや、皮膚の潰瘍には積極的に皮膚移植をしていくことなどを盛り込んだ」と話した。

広島大の嶋本顕准教授（分子生物学）からは、患者からの細胞を使って、体のさまざまな組織になる能力がある人工多能性幹細胞（iPS細胞）をつくることに成功、治療や再生医療などに向けた研究が進みつつあることが紹介された。

桐蔭横浜大の後藤真特任教授は、東京大医学部時代に15歳の男性患者と出会い、3年前、49歳で死亡するまでの治療経過などを中心に、この病気の特徴や治療の困難さについて詳しく述べた。

東京で開かれたウェルナー症候群患者家族会

ウェルナー症候群の主要な兆候
（10歳以降、40歳までに出現）
- ■早老性顔貌（白髪、はげ頭など）
- ■声のかすれ
- ■白内障（両側）
- ■皮膚の萎縮、硬化、または難治性潰瘍
- ■アキレスけんの痛み（石灰化）など

すこやかゼミ

2012年4月27日　神戸新聞

（第3種郵便物認可）　神戸新聞

からだ

若くして老化進む 早老症に初の診療指針

白内障、皮膚の潰瘍、動脈硬化進行…

患者会は難病指定訴え

若くして老化が進んでしまう早老症（ウェルナー症候群）は、患者数は少ないが、世界中で日本人の患者が6～7割を占める。このほど厚生労働省研究班による世界初の診療ガイドラインがまとまり、日本からの発信を控え、東京で患者家族会と研究報告会が開かれ、最新の情報を交換した。

ウェルナー症候群は、自分では気付きにくいが、成人になるころには白髪や白内障、皮膚の潰瘍やアキレスけんの痛み（石灰化）などが目立つようになるのが特徴。

根本的治療法はまだないが、早期発見と適切な治療で、かなりの効果が得られ、寿命も延ばせることが分かってきた。

原因はDNA修復に関する遺伝子の変異で、両親から二つ受け継ぐ遺伝子のうち片方が正常であれば病気にならないが、日本人約100人に1人で片方の遺伝子が変異していることが分かっている。

孤立する患者

患者家族会の意見交換では「2年前、やっと病気が分かった。分からないままだと大変なことになっていたと思う。患者会を通して病気に負けないよう頑張っていきたい」（千葉県の男性）。

「病気は5年前に判明。今思うと中2で白内障、高校で潰瘍ができたが、原因は分からなかった。みんなに病気であることを知られたくない」（佐賀県の女性）。

「6年間潰瘍が治らず、皮膚移植してもはがれてしまったが、遠赤外線の全身照射で血行をよくすると、傷が閉じてはがれなくなった。予想外の効果」（兵庫県の男性）。

また会の代表、遠藤博之さん（東京都）の妻昌子さんは「夫はいろいろな病院に行って、両腕を2回手術し、両足も切断。もう行く所がないというときに千葉大で病名が分かった。孤立した中で悩み、苦しんできたが、会ができて何でも話し合えるようになり、負担が軽くなった」と話した。

この後、ウェルナー症候群に国のいわゆる難病指定を求める声明文を全会一致で承認した。

iPS細胞

研究報告会では、班長の横手幸太郎・千葉大教授（細胞治療内科学）が「2009年からの全国調査で、新規患者が計396人（うち確定351人、疑い45人）見つかった。患者を対象にした2次調査では、声のかすれが約9割に見られ、ほぼ全例でアキレスけんの石灰化があり、糖尿病などの代謝異常や動脈硬化が著しく進むことなどが確認できた」と指摘。

「今後は治療の標準化と社会的な周知が不可欠で、世界に先駆けて作成した診療ガイドラインでは、代謝異常にインスリン抵抗性改善薬の効果が高いことや、皮膚の潰瘍には積極的に皮膚移植をしていくことなどを盛り込んだ」と話した。

広島大の嶋本顕准教授（分子生物学）からは、患者からの細胞を使って、体のさまざまな組織になる能力がある人工多能性幹細胞（iPS細胞）をつくることに成功、治療や再生医療などに向けた研究が進みつつあることが紹介された。

桐蔭横浜大の後藤真特任教授は、東京大医学部時代に15歳の男性患者と出会い、3年前、49歳で死亡するまでの治療経過などを中心に、この病気の特徴や治療の困難さについて詳しく述べた。

東京で開かれたウェルナー症候群患者家族会

ウェルナー症候群の主要な兆候
（10歳以降、40歳までに出現）
- ■早老性顔貌（白髪、はげ頭など）
- ■声のかすれ
- ■白内障（両側）
- ■皮膚の萎縮、硬化、または難治性潰瘍
- ■アキレスけんの痛み（石灰化）など

資料 2. 平成 24 年 2 月 19 日　研究報告会　開催ポスター

厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患研究事業
ウェルナー症候群の病態把握、診療指針作成と新規治療法の開発を目的とした全国研究
平成20～23年度 研究報告会 および 患者・家族の会

遺伝性早老症「ウェルナー症候群」の これまでの研究の歩みとこれからの展望

2012 2.19 (日) 13:00～17:30

入場無料
事前申込制

東京国際フォーラム 会議室G棟602

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号　代表電話：03-5221-9000

PROGRAM

13:00～14:00　**第4回 ウェルナー症候群 患者・家族の会**

14:30　開会の挨拶　横手 幸太郎（千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学）
ご来賓挨拶

第一部　ウェルナー症候群 研究報告

座長／森 聖二郎（東京都健康長寿老人医療センター）

15:00　講演1
ウェルナー症候群の診断基準改定と診療ガイドラインの作成
横手 幸太郎（千葉大学大学院医学研究院・細胞治療内科学）

座長／吉本 信也（昭和大学 形成外科）

15:30　講演2
ウェルナー症候群の新しい治療法への展望
嶋本 顕、田原 栄俊（広島大学大学院医歯薬学総合研究科・細胞分子生物学）

第二部　シンポジウム ウェルナー症候群の過去から未来へ

座長／葛谷 雅文（名古屋大学大学院 医学研究科）

16:00　シンポジウム1
ウェルナー症候群病態解明の道
(The winding road to the pathogenesis of Werner syndrome)
後藤 眞（桐蔭横浜大学・医用工学部生命・医工学科）

座長／田中 康仁（奈良県立医大 整形外科）

16:30　シンポジウム2
今後のウェルナー症候群の研究課題
(Future direction of the Werner syndrome research -from bench to bedside and beyond)
大島 淳子（ワシントン州立大学）

17:00　閉会の挨拶　三木 哲郎（愛媛大学大学院・加齢制御内科学）

17:30　終了

参加申し込み方法
FAXまたは郵便はがきに氏名、住所、電話番号、職業を記入し、お申し込みください。
先着50名様へ、10日以内に入場券（はがき）を送付致します。
※氏名、住所等の個人情報は、入場券の送付に使用させて頂きます。第三者に提供する事はありません。

申込先／千葉大学大学院医学研究院　細胞治療内科学
〒260-8670　千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
FAX:043-226-2095
http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/clin-cellbiol/werner/index.html

主催:千葉大学大学院医学研究院　細胞治療内科学

問合せ先:千葉大学大学院医学研究院　細胞治療内科学
〒260-8670　千葉県千葉市中央区亥鼻1−8−1
TEL:043-226-2092　FAX:043-226-2095